

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：交通量推定（2）	
日付：11月 23 日（日）曜日、セッション時間：13:15 ~ 14:45	
司会者名（所属）：朝倉康夫（神戸大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：3 編の論文発表があったが、それぞれ、パーソナリティ調査データの利用(266)、都市高速道路の最適料金決定(267)、高速転換率を組み込んだ利用者均衡配分の適用(268)というように、「交通ネットワーク」を扱うものである点が共通する程度であり、内容にはかなりのバラエティがあった。そこで、共通の議論は行わず、個別論文について討議を行った。</p>
	<p>（266）薄井智貴（東京大学）：PT 調査データの利活用方策を考える上で、どのようなデータニーズがあるか、また、PT データの変換に関する問題点が議論された。ジオコーディングや最短経路に吸着させることは興味深いが、PT データの時空間精度には限界があるし、もともと経路情報は調査の対象ではない。そのため、PT 調査に詳しくない研究者がデータを利用する際には誤解を生まないよう、十分な注意が必要である。</p>
	<p>（267）宇野伸宏（京都大学）：規範的な料金決定モデルを活用する方法を考えるに際して、モデルの一般的挙動、より具体的には、異なる目的関数を持つモデルの解の一般的特徴を知ることや、最適化問題の枠組みの違いによる料金体系の特徴を調べることが重要ではないかとの指摘があった。</p>
	<p>（268）荒巻景介（名古屋高速道路株式会社）：道路交通センサデータの高速と一般道路の分担率データの精度に限界があるため、観測交通量によるパラメータ調整はやむを得ないこと、アウトプットをどのような施策評価に利用するかという面から、均衡配分モデルが持つべき条件を明らかにし、時間帯や車種の組み込みを考えることが重要との指摘もあった。</p>